

2023年度 子供ホーム 事業報告

1 総括

2023年度は初めての子供ホームと乳児ホームの施設長併任での運営となった。経過については乳児ホーム事業報告を参照して頂きたい。まず、施設長決定時期が年度終わりだったため、申し送り期間は全くなく、子供ホームの運営状況は前年度の事業報告しか情報がなく、実態についてはそれぞれのホームを回り観察するしかなかった。予想はしていたが居室ごとの状態は環境整備が出来ているとは言えず、啞然とするばかりであった。また、精神、知的の問題を抱えトラブルを起こす児童もいて、予想はしていたが対応の困難さを感じた。

これらの問題は児童の問題なので許容範囲ではあったが、コロナ対応として自分の部屋での個食が続いていたのには驚いた。感染が増えている期間なら一時的対応で理解出来るが、児童は誰とも喋らないでスマホを見ながら食事を取っているという状態が3年間も続いていた。すぐにスマホを見ないで食堂で食事をするように指示をしたが、今でも定着させるのに苦労している状態である。

またWi-Fiが24時間使い放題であったのにも驚いた。システム構築の都合で制限が効かない状態であった為、すぐに工事を入れ22時までで切るように指示した。さらに子どもたちのスマホ依存は凄まじく、スマホを取り上げると暴言や暴力に訴える児童や、出会い系SNSで成人男性とコンタクトを取って警察にお世話になる児童もいた。SIM（加入者識別モジュール）を外したフィルタリングが効かないスマホを中学生の時から与えられていたため、まさに無法状態での使用となっていた。

養育に対する職員の意識の統一は図られておらず、基本的な「報連相」でさえ全く出来ていない状態。リーダー配置していても全くチームのグリップが効いている様子はなく、それぞれに自分の都合で日常業務を行っている。私が来る以前から子供ホームでは超過勤務を取らせない個人的な判断で指導を行っていて、私が子供ホームに入職後、すぐに労基署からの指導が来た。その上に前年度から「不適切な養育」として熊本市からの指導が入っていて、当年度も別件の指導が入った。そのような荒れた職場風土の中で初級職員は仕事が継続出来るわけもなく、多くの退職者が発生することとなった。これらのことから私自身は処理係としての立ち位置で対応するしかなかった。

山ほどの問題がある現状だったが、職員たちは極めて真面目であり、一つ一つの仕事を文句も言わず行っている姿があった。職員の育成、指示や管理の問題を私は強く感じた。

前年度の子供ホームの目標の中に「スーパービジョンの確立」という言葉が散見されたが、私が乳児ホームで行っているようなシステムはここでは見られない。いつからこうなったのか分からないが、職員の育成がなされない施設であるが故の結果であると思える。

少なくとも3年間続いたこの状態からの脱却は非常に難しいと思われるが、逆にやりがいを感じるころではある。全国的に社会的養育施設は「高機能・多機能」が叫ばれているが、子供ホームは国が言う目標と矛盾した状況にある。しかし、私はこれを「夏休みの宿題」と考え、取り組むことにした。多くの宿題を終わらせ、自由研究を行う。時間はかかるだろうが一つ一つを丁寧に処理し「高機能・多機能」の目標に到達したいと考える。

2 主な取組の実施状況と評価

(1) 職員処遇の正常化

- ①宿直中に発生する子どもへの労働的対応については超過勤務で対応するようにした。
- ②職員面接を実施し、意見の聴取を行った。年末に事業計画のアンケートを実施し、疑問や質問に対して個別に対応した。

目 標	実績	評価
①宿直中に発生する子どもへの労働的対応について、正常化する ②一般的な就労中の超過勤務の使い方を説明し、職員の理解を促す	①宿直中の児童対応については、超過勤務で対応するように改善した ②職員面接を実施し、意見の聴取を行った。年末に事業計画のアンケートを実施し、疑問や質問に対して個別に対応した	3

- 1 達成できなかった 2 あまり達成できなかった 3 ある程度達成できた
4 概ね達成できた 5 達成できた (以下同)

(2) 児童の処遇改善

- ①携帯電話の使用に関する権利侵害のない取り決めに新しくした。
- ②児童の意思表明権に対する担保として、アドボカシー団体の導入を行い、第三者による児童の意見を聴取するシステムを導入した。

目 標	実績	評価
①携帯電話の使用に関する権利侵害のない取り決めに新しくする ②児童の意思表明権に対する担保	①ポイント制の携帯の使い方を決めた。児童が自分で購入するのではなくレンタルでのスマホの選択も可能とした ②アドボカシー団体の導入を行い、第三者による児童の意見を聴取するシステムを導入した	4

(3)国が進める多機能化への対応

- ①2024 年度に施設型一時保護所の設置を目指し準備を進めたが、人員不足により開所出来ていない。
- ②自立支援のシステム化については、措置延長児の自立訓練等を整備して活用。今後については、効果的な自立支援のシステムを職業支援員と構築中である。

目 標	実績	評価
①一時保護所の設置を行う ②自立支援のシステム化を行う	①2024 年度設置へ向け整備を行ったが、人員不足により開所できなかった ②措置延長児の自立訓練棟を整備し活用している	3

(4)感染症対策(医療面)

- ①新型コロナウイルス感染症の感染症上の分類のレベルが引き下げられ、予防策の対応も変更した。インフルエンザやコロナについては、学校が感染源となることが多く、防ぐことは難しいが、感染が起こった場合、施設内で広がらないような対策を中心に行った。
- ②嘱託医と耳鼻科が閉院した。その対応として、佐伯クリニック、江津耳鼻科クリニックと新しく契約を行う。

目 標	実績	評価
①新型コロナの感染法上のレベル引き下げに伴うコロナ対応の変更を行う ②嘱託医と耳鼻科の閉院に伴う対応	①学校が感染源となることが多く、感染を防ぐことは難しいが、感染後、施設内で感染を広めない対策を中心に行った ②対応出来た	3

3 サービスの利用状況

定員に対して 86%の充足率であり、少ない入所となった。現状に合わせて 2024 年度は 5 人減の 52 人に定員変更する。ショート利用は 6、7 月がなかった為、通常と比べ少ない利用となっている。

(1)本体在籍人数

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初 日	48	46	46	49	49	51	51	50	50	52	52	52	596
前年度	52	52	53	51	51	53	52	54	52	52	52	52	626
前年度比	(▲4)	(▲6)	(▲7)	(▲2)	(▲2)	(▲4)	(▲1)	(▲4)	(▲2)	(0)	(0)	(0)	(▲30)
退 所	3	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	5
入 所	0	1	0	3	1	1	0	0	0	2	0	0	8

(2)子育て短期利用事業

①ショートステイ利用人数 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度
利用者	2	7	0	0	2	5	6	8	4	2	0	4	40
述べ人数	12	13	0	0	10	29	30	29	18	12	0	8	161

②レスパイト 利用人数 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度
述べ人数	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3

4 苦情対応の状況

(1)苦情解決委員会 2023年12月23日、2024年3月17日開催

(2)2023年度 苦情受付件数 なし

5 主な行事の実施状況

4月	進級式 辞令交付式 タケノコ掘り スポーツ交流会
5月	こどもの日 シードーナッツ外出 母の日 イチゴ狩り
6月	父の日 アンパンマンミュージアム外出 デイキャンプ
7月	七夕 茄子収穫体験 近代経営ボランティア 夏季スポーツ大会
8月	ボランティア感謝の集い プール外出 九州地区野球大会
9月	栗拾い 福岡交流野球大会
10月	秋季スポーツ大会 芋掘り体験 秋キャンプ
11月	園内活動
12月	ミカン狩り体験 デイキャンプ
1月	元旦宿膳 正月外出
2月	デイキャンプ 駅伝大会
3月	卒園式 大掃除 幼児さん遠足 ホーム移動

6 研修の実施状況

4月	法人新人研修
5月	ビジネスマナー研修 子どもの虹指導者研修 ケースワーカー部会研修
6月	九州児童福祉施設研修 中堅職員研修 SBIリーダー研修
7月	管理職員研修 小児看護学術研修 SBI児童養護施設職員研修
8月	SV研修(前半) 教育機関・児童福祉関係合同研修
9月	西日本養護施設職員セミナー 児童養護施設職員指導者研修 RIFCR研修
10月	現任訓練 看護師連絡会 全国FSW研修 児童養護施設職員向け研修
11月	社会福祉士実習指導者研修 チームリーダー養成ワークショップ

12月	性教育研修 SV研修(後半) 児童福祉総合研修
1月	SBI 児童養護施設職員指導者研修 日キ中堅職員研修 あかし指導者研修
2月	県養教講演会 箱庭療法学会研修会 全社協中堅職員研修
3月	F L E Cフォーラム 子どもの声を聞く 生活の中のLSWセミナー

7 施設整備等の状況

場 所	内 容	価 格
ミラーハウス	エアコン取り換え	¥6,325,000
ノーマンホーム	屋根改修工事	¥1,370,000

8 その他

●インシデント・アクシデント件数

レベル-1 (事故) (件)

薬の飲み忘れ	自傷行為	怪我
20	1	25

※薬飲み忘れが多い児童自身の飲み渋りも計上している。怪我は小さなものがほとんどだが電子レンジで調理時にやけどになった事故があり、児童が行う調理に関して十分な注意を促した。